

かしわ もり 柏葉の杜



学校だより NO. 32
平成30年10月12日
八頭町立八東小学校
電話71-0108 FAX71-0107

秋の実り、学びの秋 ～地域学習の様子から～



「6年 わたしたちの未来をえがこう」

6年生は、総合的な学習の時間に「わたしたちの町の未来をえがこう」と題して、学習を進めています。その一貫として先日、「北村きのご園」「大江の郷自然牧場」「隼Lab」「因久山焼窯元」の見学を行いました。八頭町で活躍する人々や八頭町内の企業の見学を通して、八頭町の特色を知ることから始めています。

「北村きのご園」では、菌床栽培で「エリンギ」「エノキ」などが作られていました。不純物を取り除いた中国地方の杉のおがくずに、米ぬか・フスマ（小麦のかす）だけを使い育てています。また、もう一つ重要なポイントは、栽培室の温度を低くし、ゆっくり成長させること。通常の「適温」の1.5倍は時間がかかりますが、それだけおいしいきのこができるそうです。こだわり農法なのです。

「大江の郷自然牧場」では、中国山地のおいしい水ときれいな空気の中で育つ鶏の卵（天美卵）を使い、おいしいスイーツが作られています。安心安全はもとより、ここでもこだわり農法で取り組んでおられました。多くのお客様がおいしい味を求め、来店されていました。

「隼Lab」では、コーヒーや地域食材が楽しめる、こだわりカフェや誰でも自由に使えるコミュニティスペースがありました。2階3階は、新たなチャレンジを生み出す起業家や企業など多種多様な人々が集まるワーキングスペース・シェアオフィスになっていました。地域や企業、行政が一体となり地域課題の解決や、新たな産業・雇用を創出する場になっていました。

「因久山焼窯元」は、今から300年前からあるそうで、鳥取藩主池田侯代々の御用窯として保護されてきたそうです。京焼と信楽焼の技法が混じり合い独特の風雅さと土味のある作風が形成され、多くの方にご愛好されているそうです。新しい物ばかりでなく、古き伝統を守り育てていくことが大切であることもわかりました。

見学を通して、働く人々の思いや考えに触れることができました。また、少子高齢化や地域課題に取り組む八頭町の姿勢に、自分たちの問題として少なからず考えることができました。



【5年 人に優しい町づくり】

5年生は春から取り組んでいる「人に優しい町づくり」について、自分たちが住んでいる八東ではどうなっているか調べに行きました。

八東図書館では、展示ブロックや車いすの貸し出しコーナーを見つけることができました。役場では、入り口に手すりがあったり、ハートフル駐車場が準備してあったりするなどお年寄りや障害のある人でも出入りしやすいように工夫してありました。

また、ポストには点字が打ってあり視覚障がい者に優しい作りになっていました。信号機も視覚障がい者が安心して使える仕組みになっており、ボタンを押すと青信号が長くなるようにしてありました。

町のあちらこちらに、健常者も障がい者も、またお年寄りも子どもも安心・安全に暮らせるように様々な取り組みがしてありました。

一人一人に優しい町づくりが、至る所のあることの素晴らしさを感じたようです。但し、ハード面の充実以上に大切なのは、自分たち一人一人の心のあり方であることに気づかせ、実践させていきたいものです。



【3年 柿渋抜き体験】

3年生は、社会科と総合的な学習の時間を合わせながら、地域学習に取り組んでいます。八頭町の特産である、梨や柿などの生産や流通を見たり聴いたりする中で、八頭町の特徴をつかんでいきます。また、八頭町の柿は、「花御所柿」「輝太郎」「西条柿」など、多くの柿が生産されています。八頭町の特徴の一つとっていいでしょう。

先日、八東フルーツ観光センターの中屋さんに来校頂き、西条柿の渋抜き体験を行いました。お店ではドライアイスを使い、渋みを抜いてから売られています。生産者の努力と工夫がみてとれます。

学習では、ドライアイスを袋に入れると、なぜ渋みがとれるのかなど教わりました。4・5日するとおいしい柿になるそうです。子供たちは、目を輝かせながら聴いていました。

八東は、「フルーツの郷」として有名です。柿や梨以外にも多くの果物が生産されています。地域のことを深く知ることによって、地域への誇りと愛情を育てたいと思います。

